

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300406		
法人名	(有)ハートコネク		
事業所名	グループホーム さくらの樹		
所在地	佐賀県鳥栖市弥生が丘4丁目22番		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年6月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様はもちろんご家族の方、来訪のたくさんの方々に居心地のいい環境を提供出来るように、いつも明るく笑顔で家庭的なあたたかい場所であることを心掛けています。誕生日会、季節の行事等にはたくさんのボランティアの方々、地域の方々、保育園、小学校からの参加もあり、入居者様ご家族様の楽しみの一つにもなっています。毎日の食事にも旬の野菜を取り入れ彩りや綺麗な器を使用し見た目でも楽しんで頂く工夫をしています。入居者様の重度化もみられていますが、最期までご本人ご家族の意向に沿えるように医療機関と密に連携して、安心して最期を迎えられるようにチーム一丸となりターミナルケアにも力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

街路樹などがある、静かな新興住宅地に作られた平屋作りのグループホームである。近くにはショッピングモールや病院、公園などもあり、交通の便も良い。建物の周囲にウッドデッキがあり、自由にテラスで過ごすことができる等、家庭的な温かい雰囲気を持ち、開設当時の入居者も多い。開設して10年を過ぎ、地域の中のホームとして存在感があり、家族や、近隣の幼稚園、小・中学校、各種ボランティア等の訪問も多い。入居者の高齢化・重度化も進んでいるが、職員の努力と共に、往診や訪問看護、地域の病院等との連携や支援体制が出来ており、本人や家族の希望があれば、看取りの支援も可能となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を『皆さんと共につくる 楽しいわが屋明るい家族』とし、誰もが目にするリビングの入り口にも掲げています。全体会議でもスタッフ全員で唱和し、都度確認し合っています。	毎日の申し送り時や会議時、全員で唱和を行ったり、掲示をしたりすることで周知を図っている。新入職員へ入職時に説明し、理念をはさんだ個人ファイルを手渡しいつでも見れるようにするなど工夫をしている。また、理念に則したケアができるよう、話し合いや記録をすることで振り返る機会がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	誕生日会、敬老会、クリスマス会、様々な行事には地域のボランティアの方々にご参加頂いたり、保育園、小学校とも定期的に交流しています。また、お野菜などの差し入れを頂く近所さんやお散歩時に声を掛けて下さるご近所さんもおられ、地域の一員としての交流も行っています。	散歩の際の挨拶や、自家製の野菜の差し入れなどがある。また、自治会への加入や、地域の夏祭に参加している。ホーム主催の行事に、地域のボランティアや、幼稚園児、小学生が参加するなど、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運推等で地域の方々の来訪時に施設の事や認知症の方々の事を積極的にお話して理解を求めています。また、運推を通じて施設に訪問の薬剤師、鍼灸師、訪問看護の方々にも地域の方々にお話をしてもらおう機会を作っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表、区長、民生委員、他代表の方々にご参加頂き、2ヶ月毎に開催しています。ご意見や地域の情報も頂いて日々の活動に活かす様にしています。	年6回開催し、区長や民生委員、地域包括支援センターの職員、家族の代表などが参加し、ホームの状況報告をしたり、地域の情報や意見交換をしている。出た意見は運営に取り込み、資料は写真入りで、わかりやすい。誰もが閲覧できる場所に置くなど情報共有の工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課訪問時には、担当の方にお会いして報告連絡相談などにも応じてもらい、さまざまな助言や支援を頂いています。	日頃からホームの運営などについて、担当者に連絡や相談を行い、対応や助言を受けている。入浴が難しい方の介助について相談し、補助金制度を利用してリフトの導入するなど、相談することで、ホームの改善に繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを作成して、意味を理解したうえで安全に配慮しながら入居者様が安心して生き活きと生活されるように支援しています。日中は全ての出入り口は開放しています。	身体拘束のマニュアルを作成し、身体拘束は行わない方針で、ケアに努めている。しかし、やむを得ず、夜間につなぎ服を着用している入居者がいる。家族への十分な説明と定期的な検討会、記録など、身体拘束をする場合の手順は行っている。	夜間帯、安全や清潔維持のためとし、常時ではないが、つなぎ服の着用がある。本人の状況理解を深め、職員間で対応を検討し、身体拘束に頼らないケアの実践に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的精神的にでも些細な事から、虐待につながることを常々話をしています。さらに見過ごされることの無いように職員間で注意し合うように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方もおられますので、研修などにさらに積極的に参加し、また、必要時は利用できるように学んでいきたいと思いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の内容などはもちろん、改定などがあればその都度丁寧に説明することを心掛けています。その際同意書を頂きますが、その後も不安や疑問点が無いか確認するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつも相談しやすい雰囲気づくりに努め、ご家族の面会も多く、職員は日常的に会話を持つことが出来ています。その際は積極的に意見要望もお尋ねし、代表者に伝え反映するようにしています。	毎日面会する家族もある。職員は訪問時、話しやすい雰囲気作りに努め、意見や要望を聞き取り、必要時は代表者に報告し、運営改善に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から相談しやすい環境を心掛けています。意見や提案もすぐに検討するように努め、毎月の全体会議でも夜間開催でじっくり話し合う機会を作ることも出来ています。	全職員が参加できる時間帯に会議を開き、意見の聴き取りに努めている。必要な物品など速やかに購入している。職員の業務への意欲向上や、チームワークが図れる様に、配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る範囲で勤務希望に添えるようにしており、また、それぞれの特技を活かせるようなシフト体制になるように努めています。年に2回は代表者との食事会、昇給や賞与も給与規定に基づき充実しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員に公表して希望に応じて参加できるようにしています。参加の際も出来るだけ勤務扱いにするなど研修参加をしやすいように努めています。資格取得をした職員もいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入会しており、日頃から相談連絡できるような関係づくりに努めています。今年度は役員も務め、いろいろと学ばせてもらい、質の向上にもつながっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居され間もなくは特に積極的に声掛けし信頼関係作りに努めています。その中でご本人にとって必要な支援を見極め、早期に安心した生活を確保されるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居前見学の段階でもご本人ご家族の状況や要望、不安にゆっくりとお話を聞くように努めて、スムーズにご入居されるように支援しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先されるべき支援を早期に見極め、対応することを心掛けています。また、必要であれば他のサービス利用もできることをお伝えして相談支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩として学ぶ機会も多く、昔ながらのやり方などを教えていただき、一緒に実施する場面もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会も多く、職員との信頼関係も出ています。来訪しやすい、話しやすい雰囲気づくりに努める事で、たくさんの情報を頂き、一緒にご本人を支える事も出ています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも来訪していただく体制で、面会時はお茶をしながらご本人とゆっくり一緒に過ごしていただけるように支援しています。	面会に訪れた家族や知人には、入居者と共に自室やリビングでゆっくり過ごして貰っている。行きつけの美容室に通っている方もいる。介護度の高い入居者も多い中、個別に対応を検討し、馴染みの場所との関係継続を実践している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様それぞれの性格や身体状態を踏まえ、テーブルの席を考えています。入居者様同士もいい関係になれるように職員が間に入ったり、寝たきりの方の居室と一緒に伺い声掛けしたりして、いい関係も出ています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	誕生日会のボランティアや野菜や草花のおすそ分け、クリスマス会の園児さんのプレゼント等、色々な形でお付き合いが続いており、近況もお尋ねし相談支援の体制も作るようにしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接お尋ねしたり、普段からの何気ない会話や表情、わずかな反応からご本人の気持ちを汲み取り、記録に残す様に努めています。	意思表示できる入居者は会話の中から聞き取りに努め、重度者は様子観察を行い、チェック表や記録の作成で職員間で情報を共有し、本人の意向に沿えるよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時は出来るだけ多くの情報を得られるようにご家族や関係者の方々にも聞き取りを行い、継続した生活が出来るように努めています。ご入居後の状態変化についても誰でも分かる様に記録に残しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	時系列式の個人記録で1日の生活内容の把握に努めています。また、入居者様の気持ちの変化も5段階に分けて記入し、スタッフ間で情報を共有し、日々のケアに活かしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや近況を毎月のホーム便りや面会時にご家族や関係者の方々にもお伝えして、それをもとに、申し送りや会議などで職員で話し合い、介護計画に活かす様に努めています。	日頃より、本人・家族、職員から意見の聞き取りに努めている。日々の記録を参考し、3ヶ月毎にモニタリングを行い、本人の意欲や能力を活用した介護計画作りに取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録には、勤務者全員が入居者様それぞれのケアプランに沿った内容や気づきを記入するようしており、朝夕の申し送りで情報の共有化も出来ています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに柔軟に対応出来るように職員の配置に余裕を持たせています。入居者様も重度化しておられる為、ご家族と相談して、他機能のサービスも取り入れて支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の知人、昔からの友人、町内の保育園や小学校、近隣のボランティアさん等、様々な方面からの訪問や支援も頂いており、交流していく中で入居者様も活き活きと生活出来ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは頻繁に話し合う機会があり、ご本人ご家族の気持ちも都度伝えることが出来ています。以前からのかかりつけ医に通院されている方もいらっしゃいます。	医師は毎日のようにホームに往診し、24時間体制での医療支援が可能となっている。他科受診や、以前からの医療機関の受診は家族対応で自由に選択可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師や訪問の看護師とも普段から情報の共有を行い、些細な変化や気づきを早目に報告連絡し、いつでも検査を行えるような体勢になるよう努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の不安を少しでも軽減できるように職員はこまめに面会に伺うようにしています。また、ソーシャルワーカーの方とも連絡をこまめにとり、経過と早期退院に向けて話し合いも行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居時は施設で可能な終末期ケアの説明を行っています。ご本人の状況に応じて都度、ご本人ご家族の意向を確認し、早期より希望に添える生活を送れるように、終末期には主治医、ご家族と話し合いを繰り返し、日々変化される状態にも申し送りや記録物で確認しあい全職員一丸となり支援しています。	入居時に説明を行っている。看取りの経験もあり、状況に応じて、主治医や家族、訪問看護師、職員で話し合いを繰り返し、情報を共有して、本人・家族の意向を尊重した看取り支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導で心肺蘇生術、AED操作の講習を行っています。その際は全職員が実技演習できるようになっています。緊急時についてのマニュアルもあり、いつでも確認できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署等の指導により、近隣の方、区長様他の参加も頂き行っています。訓練は昼間に夜間を想定して行い、全職員が消火器の実践も受ける事ができています。また、近隣の方の連絡網も活用するようにしています。	運営推進会議と合わせて、年2回消防署の立会の下、避難訓練を実施している。地元の有志の協力もある。災害マニュアルを整備し、職員への消火器使用の訓練など行っている。避難場所や経路、移動手段の確認はこれからである。	訓練は実施しているが、災害時の避難経路、避難場所、移動手段など、より具体的なマニュアル作成が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の大先輩として尊重した声掛けと支援に努めています。新しい職員にはまず一番に身に付けてもらいたい事として話しています。	新入職員には理念の理解を含め、個別に入居者に対しての尊厳の保持や言葉遣い、プライバシーの尊重について話しをするようにしている。会議の時なども日々の気づきを取り上げ、対応を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	優しい雰囲気、入居者様が話しやすい雰囲気になるようにと心掛けています。日常の何気ない会話や表情も記録に残す事で、ケアに活かす様に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはありますが、以前からの生活のペースも尊重しながら声掛けし、それぞれの入居者様のペースが出来ています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人で出来にくい方はご家族と相談して、出来るだけその人らしいおしゃれが出来るように支援しています。訪問理美容では、カットだけでなく、カラーやパーマを利用される方もおられます。洋服選びも出来るだけご本人と一緒にするようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に応じて出来ることをお手伝いして頂いたり、いろいろな綺麗な食器を利用し見た目にも楽しく、また、職員も一緒に会話をしながら同じ食事を摂る事で楽しい食事の時間にもなっています。	年間の献立を作成しているが、野菜の差し入れがあるときは臨機応変に対応している。新鮮な旬の食材の取入れ、彩りに配慮している。食事が美味しく取れるように、職員も一緒に食事をするなど楽しい雰囲気づくりに努めている。また入居者に出来る手伝いをお願いし、本人の励みとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食後、水分摂取量は毎晩チェックし、入居者様の状態の把握に努めています。食事形態も状態に合わせてミキサー食やトロミを検討したり、水分や食事が摂りにくい方にはポカリや栄養補助食品の利用もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者様に応じた口腔ケアを行っています。義歯は定期的に洗浄液に浸漬して清潔保持に努めており、定期的な歯科診療により口腔内のチェックや清掃を受けておられる方もいらっしゃいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、個人個人の排泄パターンを把握し、出来るだけ日中はトイレでの排泄をされるよう重度の方も2人介助で支援しています。	入居者の重度化もあり、排泄のチェック表を作り、水分補給や、入居者個別の排泄パターンの把握に努めている。声掛けや2人介助で対応することで、トイレで排泄出来るよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には旬の野菜や繊維質の多い食材を取り入れています。テーブルには水分をいつでも摂って頂けるように、個人用の水筒、湯飲みを用意して、一日の水分摂取量のチェックも行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の当日の体調や気分に応じて入浴して頂いています。職員と1対1での時間で、洋服選びから入浴、入浴後の爪切り等のケアまで行い、たくさん会話も生まれ、入居者の楽しみの一つにもなっています。	週3回入浴をしている。半数ずつ入浴するため、希望や状況に応じて入浴することができる。個人的には週3回、利用出来ている。入居者に1対1で対応し、会話を交えゆっくり楽しく入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は自室で臥床されたり、読書されたり、リビングのソファでくつろがれたりそれぞれ状況に応じて、夜間の睡眠に支障のない程度で休息されています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、利用者様毎にファイルして、いつでも確認出来るようにしています。追加や変更薬に関しては、薬剤師の説明を受け、質問があれば都度対応もして頂いています。服薬時は、誤薬の無い様に職員2名で指さし読み上げしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力、趣味や生活歴を把握して、場面場面で出番を作るようにしています。実際できない方もやっている気分を味わってもらえるように声掛けして雰囲気味わってもらうようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日、午前と午後は季節の植物を眺めながら、サンデッキのお散歩をして頂いています。近隣の公園までのお散歩や季節のお花見ドライブも取り入れ、ご家族にもご協力を頂き、入居者様の楽しみの一つにもなっています。	高齢化や重度化もあり、入居者の体調に合わせて、小グループずつ外出支援を行っている。ウッドデッキでの日光浴や散歩など、日常的に外気に触れる機会がある。家族の支援で遠方まで観劇に行くなど、家族の協力を得ながら外出する工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居様は現在おられません。外出時には代表してお支払いをして頂くように支援したり、お金を使う機会を作る様にしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族へ年賀はがきを送ったり、遠方のご家族からの贈り物には、お礼の電話をご本人や職員が代行して支援をし、継続した関係作りにも努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングではオープンキッチンで調理の音や匂いでいつも生活感を感じて頂いています。季節に応じたお花や飾り付け、製作展示もあり、心地良く季節感を感じて頂き、家庭的な環境づくりを心掛けています。	照明は暖色灯を使用し、床は自然木で、植物を飾るなど暖かみがある。換気を小まめに行い、臭いもなく、居心地の良さを感じることができる。台所や食堂は続きの間となっており、調理の様子など伺え、生活の流れがわかるつくりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでもテーブル、キッチン側、ソファ、和室等、ご本人の思いや状況に応じてそれぞれに居場所が出来ています。食事も席も柔軟に対応出来るようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族とも相談しながら、馴染みの椅子やテーブル、使い慣れた小物等も持参して頂いています。昔の写真やご家族知人の方の面会時に撮影した写真も印刷して各居室に飾り、いつでも見て頂けるように工夫しています。	居室設えは本人の状態や好みに対応し、加湿器やエアコンなどを設置している。家具の持ち込みは自由で、壁には家族の写真などを飾り、家族を思い出せるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家庭的な雰囲気や損なわない様に居室やトイレ浴室等分かりやすく配置しています。施設内は安全に自立支援できるように遠目でも見守りしやすい造りとなっています。キッチンにはアイランドキッチンで三面からおしゃべりや見学、お手伝いをして頂けるようにしています。		